

富山県教育委員会教育長 殿

学 校 名 富山県立上市高等学校
校長氏名 前原 五輪雄

2023年度学校総合評価を別紙(様式5)とともに提出します。

2023年度 学校総合評価

6 今年度の重点目標に対する総合評価

(1)教科指導

基礎学力の定着に向けた学び直しの時間を設け昨年度と同様に設定し、ベネッセ社の「クラッシー」を継続導入した。アンケート結果 1 学年で約 60%の生徒がやりがいを感じた。一方で、2 年生は「やりがい」が 1 年次の 48%から 34%に低下した。個々の生徒の進捗把握が困難な点、タブレットを使ってゲームなどの遊びをする生徒が増加していることを考慮し、数学と英語において習熟度別のクラスを設置し、一部授業形式を取り入れた。次年度は各教科の中で学び直しを位置づけての実施を検討する。

(2)生活指導

- ①基本的な生活習慣を確立し遅刻回数を減少させるために、毎朝、玄関前指導を通じて挨拶を交わしながら生徒とのコミュニケーションをとった。生徒玄関にディスプレイを設置し身だしなみの啓発なども併せて行った。遅刻については昨年度より大幅に増加しており、今後はホームルームの時間を生徒自身による話し合いなども導入していく必要がある。
- ②スマートフォンによる SNS のトラブルを減少させるために、ネットトラブル教室など外部講師を招いての説明会を行ったり、日頃の使用について呼びかけを強化したりした。その結果、スマートフォンに関するトラブルは減少に転じた。今後は生徒会活動などを通じて、生徒どうしの議論を活性化させたい。

(3)進路支援

- ①上市町と連携し上市高校キャリア教育プログラム「職業を知る会」、「職場見学」、「インターンシップ」を全て実施することが出来た。インターンシップは通常どおり行い37名が単位認定された。
- ②昨年度から「進路ガイダンス」に内容を切り替え、全生徒が参加するよう取り組んだ。生徒は個々の希望にあったブースに参加できたことで、社会人になるための基本的な考え方を深く学ぶことが出来た。

(4)特別活動

- ①「体育大会」、「マラソン大会」、「学園祭」を全て実施することが出来た。行事の準備や運営方法など、体育大会や学園祭では保護者や地域住民など外部の方にも広く生徒の活動を知って頂く良い機会となった。
- ②部活動については、特に活動の制限がない中で実施できるようになった。このような中で生徒に行った「部活動アンケート」では、個人目標を達成した生徒が全校平均で昨年の69%に並び68%と高かった。また今年度入学生から部活動の加入を希望制としたため、活動が活発になってきた傾向が見られた。

7 次年度へ向けての課題と方策

(1)学習活動

- ①基礎学力の定着を図るための「学び直し」において、各教科で達成したい力を整理し、教科横断的に基礎力を身につけることができる枠組みを構築する。
- ②「産業社会と人間」、「総合的な探究の時間」、「課題研究」を一体として地域課題の研究に取り組み、教科を横断して学んだことを発展的に研究につなげられる力を身につけさせる。

(2)学校生活

- ①規範意識を向上させるために、家庭と連携しながら「家庭内でのルール」作りを進める。保護者に対して「ペアレントトレーニング」の講座を開講し、学校と保護者のスタンスを揃えるようにする。
- ②遅刻が多い生徒の根本原因が探れるよう、保護者や生徒と一緒に考えて考える機会を設け指導に取り組む。

(3)進路支援

- ①上市高校キャリア教育プログラムを継続的に実施してきたことで地域の方に認識してもらえるようになってきた。更に効果があがるよう、保護者も参加できる機会を設定していく。
- ②就職は売り手市場となっているが、それぞれの企業が時代の変化に合わせて求める人物(能力・成績・適性等)を継続的に把握し、データ化することで情報を有効に活用できるよう取り組む。

(4)特別活動

- ①学校行事の主体者は生徒であることを生徒自身が自覚できるように、あらゆる行事で生徒会が中心となり、生徒が運営主体となるようホームルームの運営を支援する。
- ②部活動が活発化するように、特別活動委員会を有効に活用し、その方策について具体的に検討する。